

【R6年度新規コース】

研修名

職業訓練DX化のためのデータ利活用

NEW!

【本研修のねらい】

デジタル人材の育成が大きなテーマとなる中、職業訓練においてもDX化が急務となっています。本研修では、全ての指導員を対象に簡単な事例と実習を通じて、データの収集と分析、可視化、コミュニケーションの方法を学び、データを活用した職業訓練のあり方への理解を深めます。この研修の受講により、今後の業務・訓練にデータをいかに利活用していけばよいかのヒントとなります。

【カリキュラム等】

研修時間：12時間（オンデマンド＋事前課題＋オンライン研修）

1. DXの推進に関する現状と課題
2. 職業訓練のDX化とデジタル人材の育成
～職業大における事例紹介～
3. データ収集とその準備
4. 実習：訓練データ収集と分析の手法
5. データの可視化とその意味

6. 職業訓練とデータの利活用
7. データ・コミュニケーション
8. 技能訓練におけるデータ活用

受講上の注意

受講者用PC、インターネット環境が必要となります。事前課題は、Googleフォームを使います。

オンデマンド、事前課題提出可能な日程でお申し込みください。（例：週に3日、1日30分課題に取り組む場合、4週が必要となります。）

研修名

見える化の基本と実践

NEW!

[本研修のねらい]

製造現場において、様々なものやことが見えないことによって、ムリ、ムラ、ムダが発生し、生産性の低下が起こります。納期に間に合わない、利益が出ない、品質が悪化するなど結果的に顧客の満足度を下げただけでなく現場のモチベーションが下がります。本研修では改めて見える化の意義を整理するとともに実践的な見える化の実例を紹介していきます。

[カリキュラム等]

研修時間：12時間

1. 見える化の意義と役割
2. 5S、4Mの見える化
 - (1) 整理、整頓の見える化
 - (2) Man, Machine, Method, materialの見える化
3. QCDS+Iの見える化
 - (1) 品質の見える化
 - (2) コスト見える化
 - (3) 納期の見える化
 - (4) 安全の見える化
 - (5) 情報の見える化
4. 経営の見える化
 - (1) 目標と日常管理の見える化
 - (2) 工場全体の見える化

研修名

生産管理の問題解決

NEW!

【本研修のねらい】

ものづくりの業務の流れと各部門（企画、開発、製造、購買）の役割と機能について学び、ものづくりプロセス全体のしくみを理解するとともに、ものづくり現場でのコスト低減を含めた生産性向上のための仕事の進め方、問題点の発見・改善への取り組みを習得する。

【カリキュラム等】

研修時間：12時間

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 生産活動の基本 | 6. ムダの発見 |
| 2. 生産現場の問題点とは | 7. 現場の改善 |
| 3. 現状分析とムダの発見 | 8. 改善の手順 |
| 4. ムダとは何か | 9. 効果的な改善のためのポイント |
| 5. 現状分析 | 10. 総合演習 |
| | 11. まとめ |

研修名

施設の魅力を発信するためのマーケティング戦略 -リサーチ力・提案力・発信力-

[本研修のねらい]

ターゲットに対し、訓練業務の魅力を発信することは重要です。訓練生や学生募集、イベント、見学会、説明会など様々な場面で、魅力的に発信することは、施設の認知度を高め、訓練業務全般のPDCAを効果的に回すことにつながります。そこで本研修は施設の魅力を高めるためのマーケティング戦略を考えます。

[カリキュラム等]

研修時間：12時間（通信研修＋対面研修）

1. 課題定義
2. 訓練業務とマーケティング
3. 訓練業務のビジネスモデル
4. リサーチ
5. 伝える仕組み
6. コピーライティング
7. 訓練業務のベネフィット
8. メッセージの組み立て
9. プレゼンとセールストーク
10. 行動計画

研修名

レジリエンス力を高める研修

NEW!

【本研修のねらい】

レジリエンスとは「弾力性」「回復力」を意味する言葉です。先行きが不透明で、将来の予測が困難な状況では、全てを計画通りに行うことは難しく、また困難な状況に直面する場面では、悲観的になりすぎず、柔軟に対応していくことが求められます。組織内のレジリエンスを向上させるためには、個人をエンパワーする方法と環境に働きかける方法があります。本研修では、レジリエンスの理解を深め、レジリエンスの個人的要因と環境的要因に働きかける方法を学習します。

【カリキュラム等】

研修時間：12時間（オンデマンド研修＋オンライン研修）

1. レジリエンスとは

- (1) レジリエンスのチェック
- (2) 個人と組織のレジリエンス
- (3) レジリエンス向上に向けて指導員が出来ること

2. 個人に向けた働きかけ

- (1) 思考と感情特性を知る
- (2) 自己課題の発見

3. 個人と組織に向けた方法

- (1) 共感的傾聴訓練
- (2) ストレスコーピング研修
- (3) アサーション研修
- (4) フォーカシング研修

4. 連携

- (1) 組織全体で取り組む

研修名

生成系AIを活用した訓練サービス業務の効率化とポイント

NEW!

【本研修のねらい】

AIの進化は一般のビジネスだけでなく、訓練サービス業務全般にわたって大きな変革をもたらす可能性があります。特にChatGTPや画像生成AIなどをはじめとした生成系AIは訓練業務の効率を大きく改善することが期待されます。そこで本研修では生成系AIを用いた訓練業務のあり方を習得するものです。（なお生成系AIを取り巻く環境は大きく変化する可能性があります。）

【カリキュラム等】

研修時間：12時間（通信研修＋対面研修）

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 生成系AIの種類と動向 | 6. リサーチ業務への展開 |
| 2. AI時代に求められる能力 | 7. 募集業務への展開 |
| 3. デザイン思考 | 8. 訓練業務への展開 |
| 4. フレームワーク | 9. 広報業務への展開 |
| 5. ChatGTP等の活用場面 | 10. 業務効率化計画 |

研修受講にあたってのご注意

- ・ChatGTP等の生成系AIは、技術開発のスピードが非常に早い分野です。そのため、研修カリキュラムはあくまでも現時点の案であり、研修実施時には、その時点の技術レベルに合わせ、内容を大きく変更する可能性があります。また技術環境も大きく変わることも予想されます。ご承知おきください。
- ・1グループ1台のネット環境にあるPCをご用意ください。（4～5名/グループ）

研修名

指導員のための文書作成力

NEW!

[本研修のねらい]

ねらいは、日本語文書作成法を学ぶ機会が少なかった方を対象に、他人が読んで分かりやすい文書を書くためのポイントを体系的に整理・理解し、文書作成力をアップさせることです。集合研修2日間のコースだけでなく、通信活用研修(集合研修1日間+事前課題)も可能で、受講しやすくなっています。集合研修については、Webの双方向通信(オンライン)でも実施できます。

[カリキュラム等]

研修時間:12時間(集合研修12時間(2日間)または 集合研修6時間(1日間) + 個別通信研修6時間)

1 集合研修(12時間または6時間)

- 1.1 本研修で対象とする文章について
- 1.2 文章を作る前の準備
- 1.3 文章全体を組み立てる方法
- 1.4 段落の組み立て方
- 1.5 文章の流れと文の構造
- 1.6 分かりやすい表現

2 個別通信研修(通信活用研修の場合)

- 2.1 事前課題として設定されたテーマによる文書作成
- 2.2 作成した文書の送付(研修実施施設 → 職業大)
- 2.3 担当教員による添削指導
- 2.4 添削結果の送付(職業大 → 研修実施施設)

注)この研修の実施には
テキスト購入が必要です。

研修名 **一般校の指導員のための精神・発達障害に配慮した支援と対応(理解と接し方編)**

人気コース

【本研修のねらい】

障害等の診断の有無に関係なく、精神・発達障害と似た行動をする訓練生の対応方法を習得します。このような訓練生は、個性が高いので対応方法は個々に合わせる必要があります。そこで、対面実施ならではの、実践的なグループワーク演習とロールプレイングにより、本人を行動特性で理解する方法と、行動特性に合わせた配慮した接し方の習得を目指します。

【カリキュラム等】

研修時間：12時間(2日間)

1 発達障害と精神障害の基礎知識

- (1) 主な発達障害(ASD、SLD、ADHD)
- (2) 主な精神障害(統合失調症、気分障害)
- (3) 疑似体験演習

2 接し方のポイント

- (1) やってはいけない接し方
- (2) 話し方のポイント
- (3) 褒め方のポイント

3 行動特性の気づき

- (1) 気づきのポイント
- (2) 強み・弱みの発見演習

4 面談による把握

- (1) 行動特性にもとづいた対応
- (2) 面談演習

5 支援機関の紹介

※本研修は、対面実施専用です。

※オンラインでの研修を希望される場合は、「【通信活用研修】精神・発達障害と似た行動をする訓練生への支援Ⅰ(理解と接し方)」をご指名ください。

【R6年度新規コース】

研修名

一般校の指導員のための精神・発達障害に配慮した支援と対応(訓練の支援と支援体制編)

人気コース

【本研修のねらい】

障害等の診断の有無に関係なく、精神・発達障害と似た行動をする訓練生の対応方法を習得する研修シリーズの2つ目です。理解と接し方編で習得した方法を活用して、訓練生活や実習の場面での支援について検討できる組織的な支援体制の構築を目指します。対面実施ならではの、実践的なグループワーク演習が豊富にあるのが特徴です。

【カリキュラム等】

研修時間: 12時間(2日間)

1 行動特性のリフレーミング

- (1)リフレーミングとは
- (2)リフレーミング演習

2 周囲の訓練生に気づかれない支援方法

- (1)支援検討の基本方針
- (2)5つの支援テクニック
- (3)支援検討演習

3 支援体制構築

- (1)支援体制構築のポイント
- (2)記録のとり方
- (3)エピソード記録演習

4 支援機関との連携

- (1)支援機関の紹介
- (2)ネットワークの構築と維持
- (3)アドバイス活用演習

5 本人・家族の協力

※本研修は、対面実施専用です。

※オンラインでの研修を希望される場合は、「【通信活用研修】精神・発達障害と似た行動をする訓練生への支援Ⅱ(訓練の支援と支援体制)」をご指名ください。